

EAI/ETL 導入企業が陥りやすい連携課題 セルフチェックセミナー

～ データ連携基盤、比較せずに使い続けていませんか ～

パナソニック デジタル株式会社

アンケートにご回答いただいた方へ、 本日の発表資料をお送りします

アンケート

各設問に回答後、画面下の「回答」をクリックしてください。

アンケートにご協力ください_デキる管理者はOSとアプリを分ける！？～「苦労あるある」から考える、VDIの最適解～

必須 1.会社名

必須 2.お名前

必須 3.セミナー資料を希望されますか

☐ 希望する

☐ 希望しない



データ連携基盤、比較せずに使い続けていませんか？

**EAI/ETL 導入企業が
陥りやすい連携課題
セルフチェックセミナー**

樽谷 厚史
代表取締役
パナソニック デジタル

Panasonic 主催：パナソニック デジタル株式会社
協力：アステリア株式会社

セミナー終了後、本日のセミナーの「アンケート」が表示されます。
ご回答いただいた方へ、本日の発表資料をお送りします。

樽谷 厚史 | Tarutani Atsushi

パナソニック デジタル株式会社
営業推進統括部 西日本営業推進部

- ・ 民間企業様向けセールス
- ・ IT業界経験15年以上
- ・ データ連携ツール担当



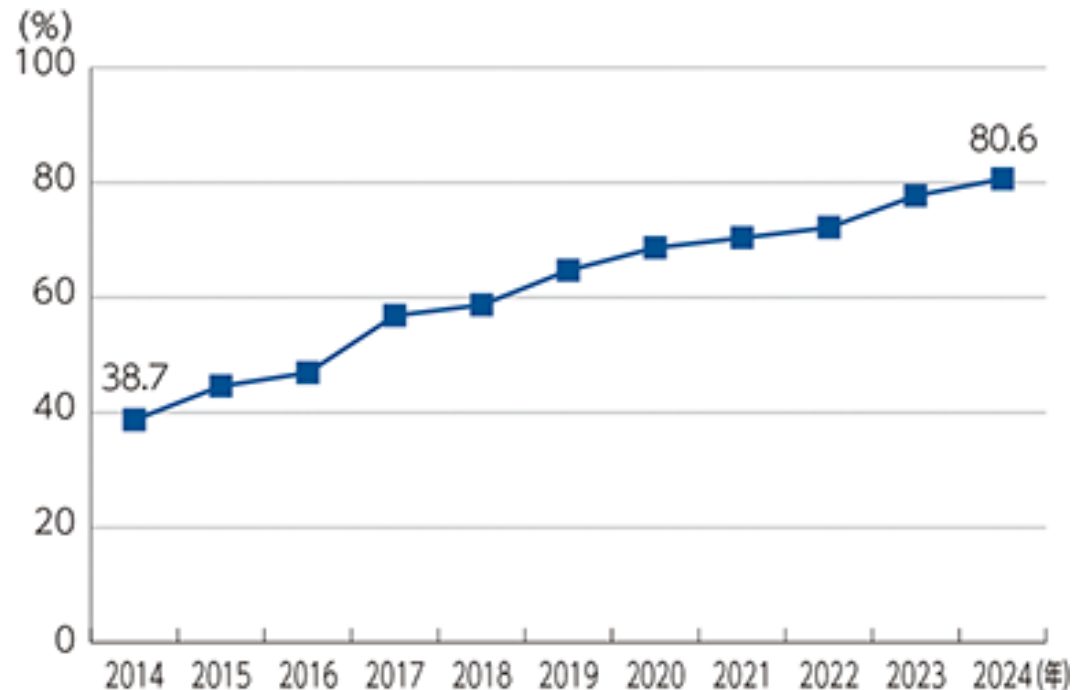
1. いま多くの企業で起こっていること
2. 貴社の連携基盤は大丈夫？セルフ診断チェック
3. 本当にリプレイスするべきか、残すべきか
4. どのようにして移行するか（事例ご紹介）
5. ASTERIA Warpとパナソニック デジタルの取組みのご紹介

1. いま多くの企業で起こっていること

クラウドサービス利用の拡大

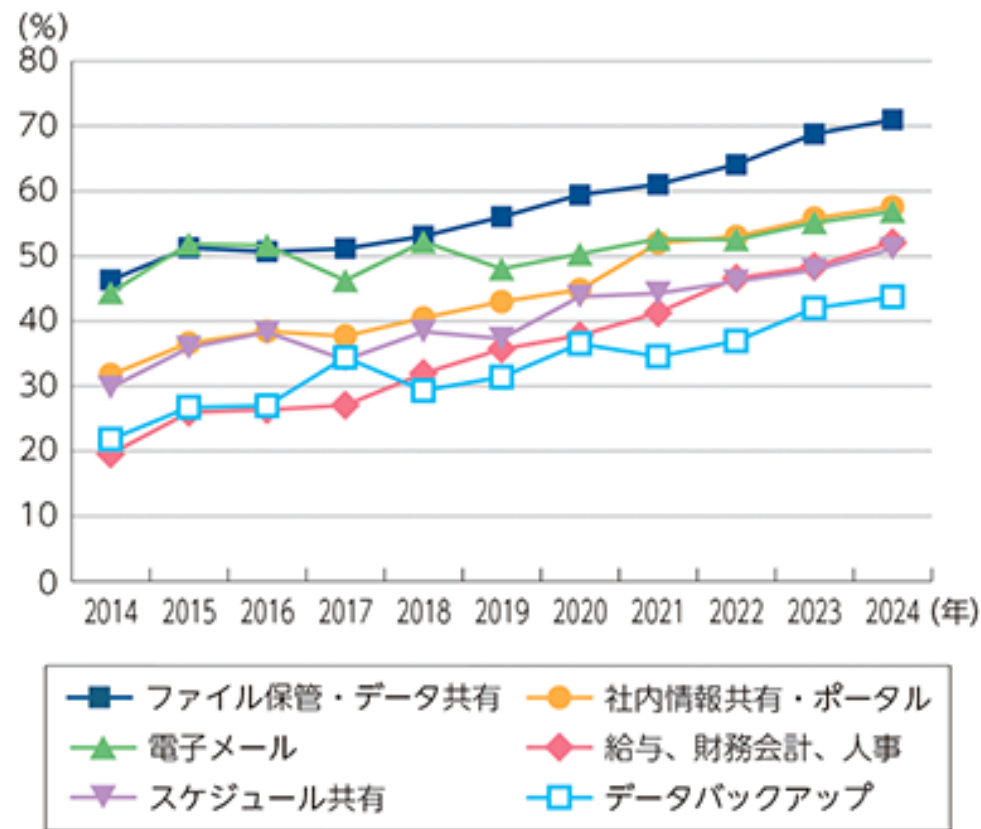
2024年時点で、80.6%の企業がクラウドサービスを利用

クラウドサービスの利用状況の推移



※全社での利用と一部事業所または部門での利用を合計

クラウドサービスの利用率の推移(利用用途別)



※ クラウドサービスを利用している企業を対象としている。

[総務省 | 令和7年版 情報通信白書 | クラウドサービス](https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/nd111210.html)

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r07/html/nd111210.html>

社内におけるクラウドの展開状況

オンプレミスや既存システムと共存してクラウドの展開が進んでいる

社内でどのようにクラウドを展開しているかお選びください。
(複数回答可)

オンプレミスを残しつつSaaS・クラウドサービスなどの利用 41%

既存システムの一部をIaaS・PaaSなどへ移行 19%

プライベートクラウドを構築 16%

わからない 13%

既存システムを全面的にIaaS・PaaSなどへ移行 8%

その他 2%

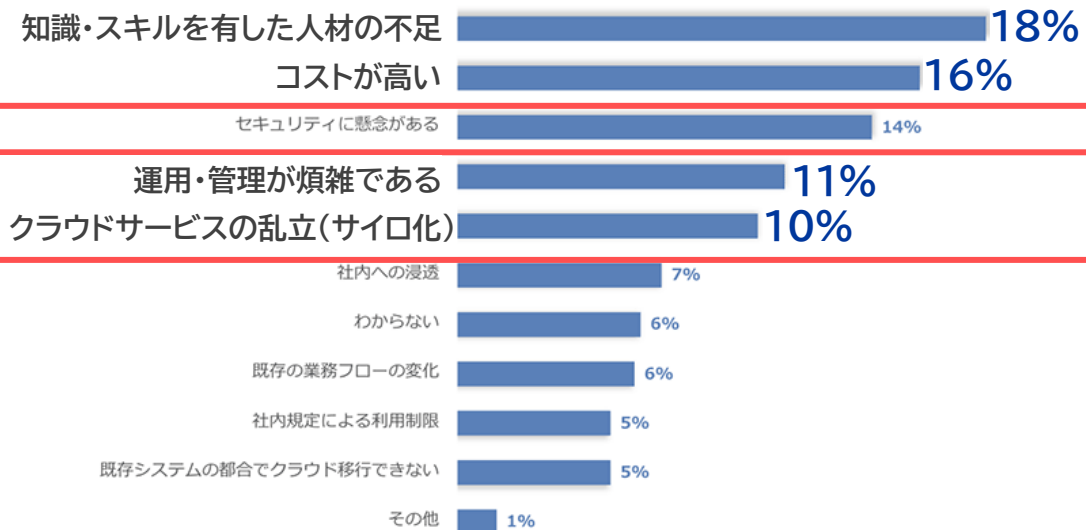
[2024年実態調査から見る”企業のクラウド活用の目的・課題”とクラウド連携の重要性 | データ連携ツール「ASTERIA Warp」](https://www.asteria.com/jp/warp/blog/136123.html)

<https://www.asteria.com/jp/warp/blog/136123.html>

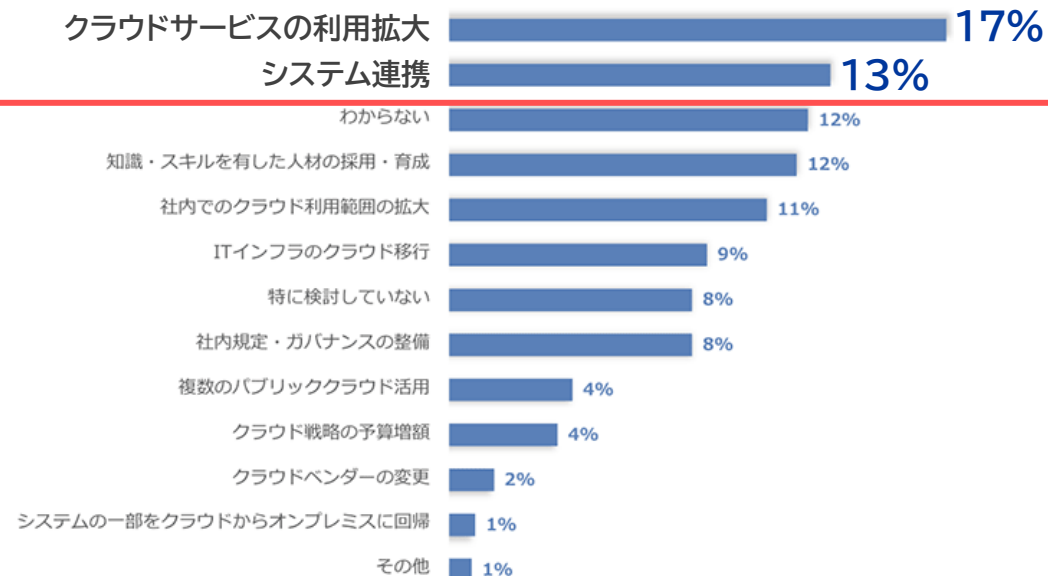
クラウド活用の課題と今後の計画

今後のクラウドサービス利用拡大を視野に入れたシステム連携を検討している企業が多い

クラウド活用における課題をお選びください。
(複数回答可)



今後、予定・検討しているクラウド計画をお選びください。
(複数回答可)



[2024年実態調査から見る”企業のクラウド活用の目的・課題”とクラウド連携の重要性 | データ連携ツール「ASTERIA Warp」](https://www.asteria.com/jp/warp/blog/136123.html)

<https://www.asteria.com/jp/warp/blog/136123.html>

現行のデータ連携基盤における5つの課題

年々増え続けるクラウドサービスとの連携に対応しきれなくなっている



SaaS・API増加

ビジネス変化に追従できない



属人化

担当者しか分からない

現行のデータ連携基盤



可視化不足

障害時に原因が見えない



性能限界

処理が追いつかない

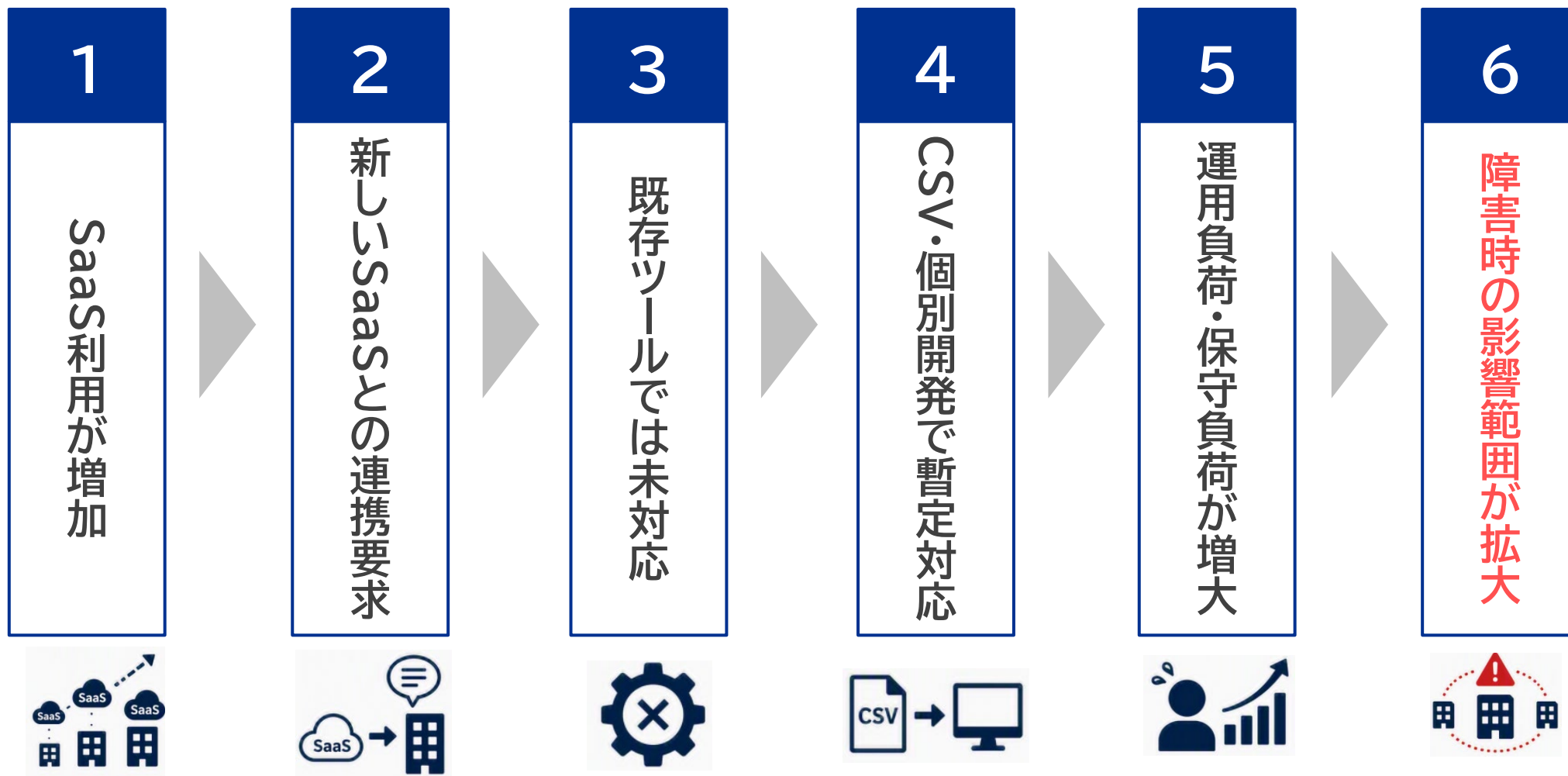


コスト増大

使い続けるべきが分からない

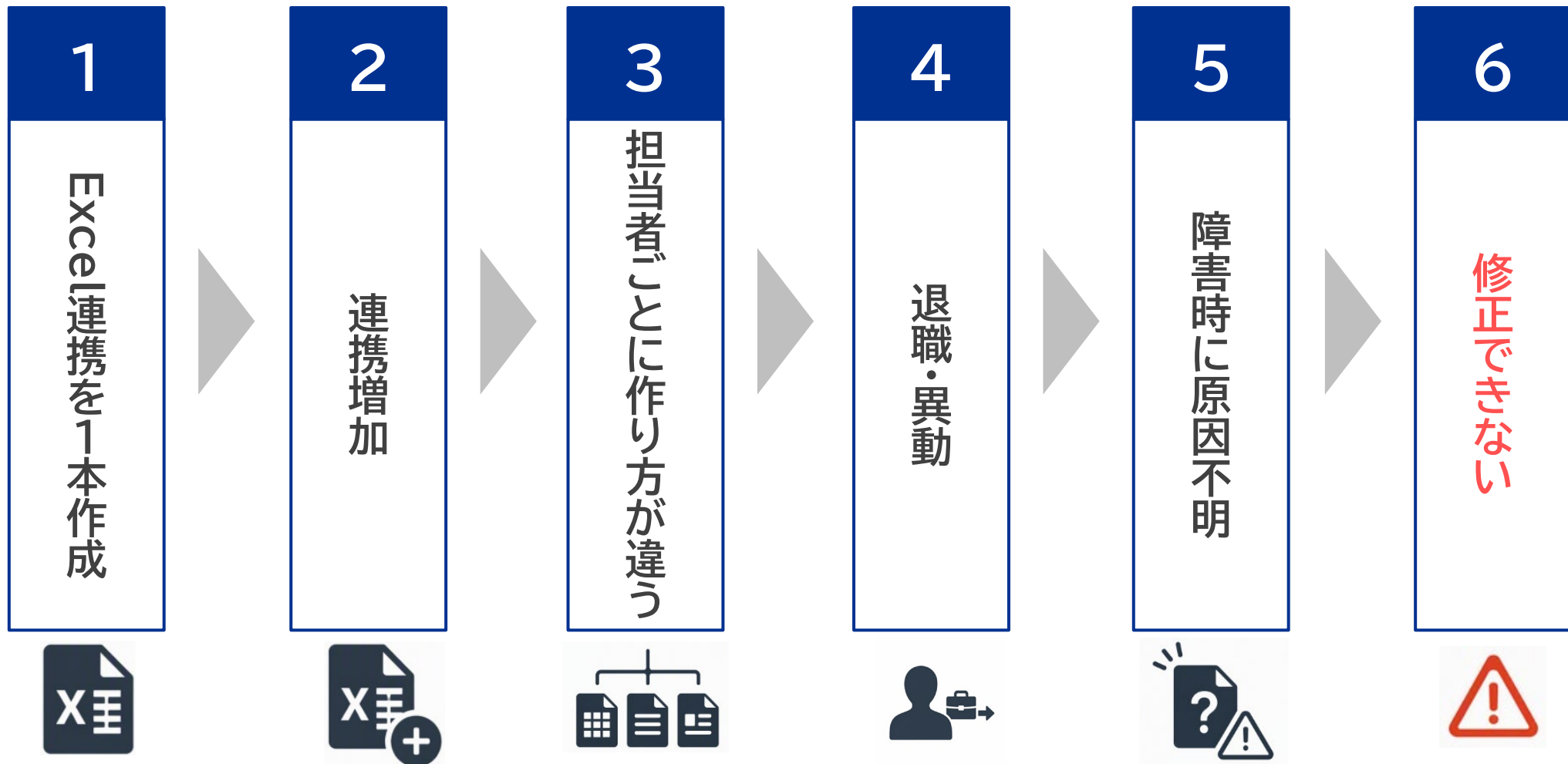
実際に企業で起こっていること ケース1(SaaS増加)

新しいSaaS導入のたびに運用負荷が増加



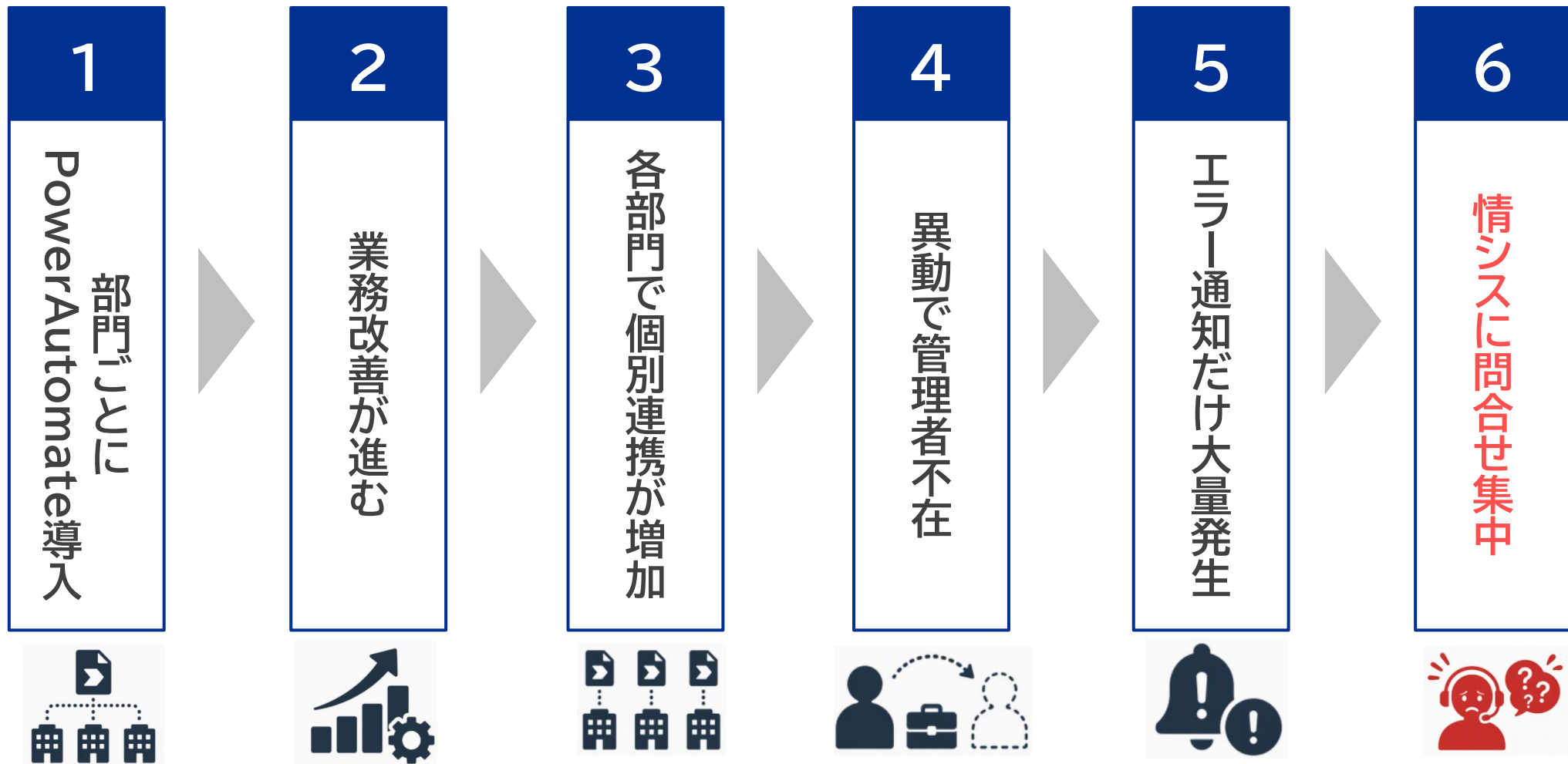
実際に企業で起こっていること ケース2(属人化)

最初は簡単な連携のはずが、今は誰も触れない仕組みに



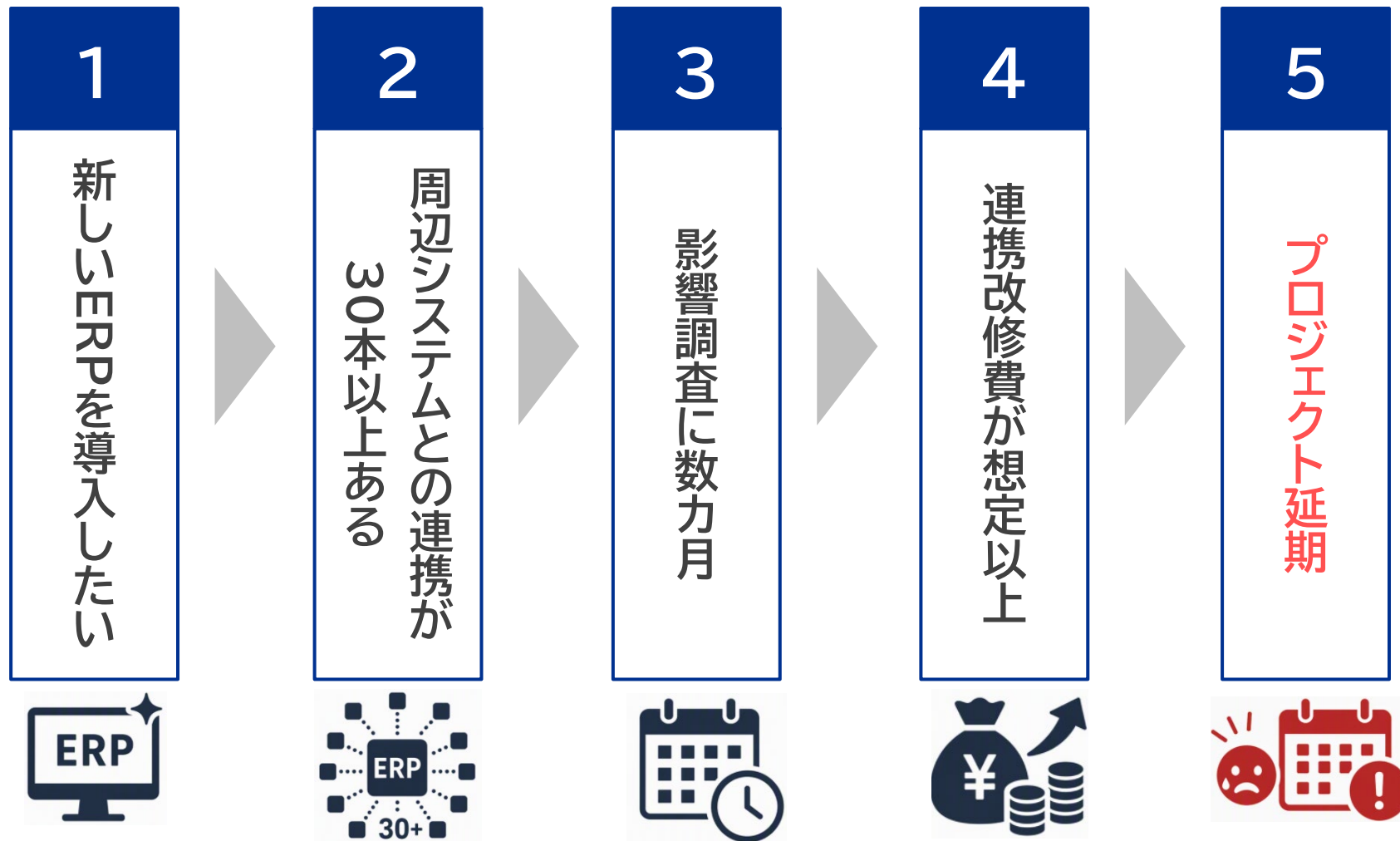
実際に企業で起こっていること ケース3(可視化不足)

現場主導で作った連携が増えすぎて管理できない



実際に企業で起こっていること ケース4(コスト増大)

新システムを入れたいののに連携がボトルネックになる



2. 貴社の連携基盤は大丈夫？セルフ診断チェック

貴社の連携基盤は大丈夫？ 100秒セルフチェック

まずは自社の状況をチェックしてみてください

1 属人化

- ☐ 連携修正に1週間以上かかる
- ☐ 担当者がいないと仕様が分からない
- ☐ 全体像を説明できる人が限られる

2 可視化不足(障害・監視)

- ☐ 障害原因の特定に時間がかかる
- ☐ エラー時に“とりあえず再実行”
- ☐ ログが十分に追えない

3 可視化不足(技術負債)

- ☐ 連携仕様書が最新化されていない
- ☐ 同じような処理が複数存在する
- ☐ 修正のたび別箇所に影響が出る

4 SaaS・API増加

- ☐ API連携が増えている
- ☐ SaaS連携が後追いになっている
- ☐ 新システム導入のボトルネックになる

5 性能限界

- ☐ データ増加で処理時間が延びる
- ☐ 夜間バッチが終わらないことがある
- ☐ 処理順序や整合性に不安がある

6 コスト増大

- ☐ ライセンス費用が年々増加
- ☐ 運用コストを説明できない
- ☐ 値上げにより負担が増えている

スクリーンショットOK！

貴社の連携基盤は大丈夫？ 100秒セルフチェック

いくつチェックがつかしましたか？

チェックの数が 0～3個

安定運用



継続利用

チェックの数が 4～8個

要注意！



部分改善・部分移行

チェックの数が 9個以上

危険！！



全面切替

※あくまでも目安です

3. 本当にリプレースすべきか、残すべきか

「残す」判断をするケース

チェックの数が 0～3個



- 属人化していない
- 既存ツールにEOLの予定がない
- 連携フロー本数が管理可能な範囲

「共存」判断をするケース

チェックの数が 4～8個



- SaaS追加が増加している
- API連携が急増している
- 一部連携のみ課題が発生している

「切替」判断をするケース

チェックの数が **9個以上**



- 既存ツールのEOL予定がある
- 技術者が不在である
- 維持費が高騰している

リプレースの判断するには

チェックの数が 0～3個

1

残す



継続利用

チェックの数が 4～8個

2

共存

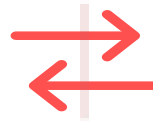


部分移行

チェックの数が 9個以上

3

切替



全面切替

重要なのは「乗り換え前提」ではなく、最適な選択肢を判断すること

4. どのようにして移行するか（事例ご紹介）

一気に切り替えず、現実的なステップでリスクを抑えて移行する



残す判断をするのにも、まずは検証をすることから

乗り換えの事例（①製造業様）

現行基盤を残しながら段階的に移行。まずは販売・会計連携から着手

課題

- ・ 既存ベンダーへの依存が高く改修に時間がかかる
- ・ 連携フローがブラックボックス化

対応概要

販売→会計連携で置き換えを実施し、お客様の個別開発機能を廃止



効果

- ・ ベンダー依存を低減し、また改修工数を削減することで保守性の向上
- ・ フロー構成が見える化することにより、属人化を解消し可視化
- ・ 他システムへの横展開が可能とし、段階的移行の土台を確立

乗り換えの事例（②民生・産業資材・建材・化学品メーカー様）

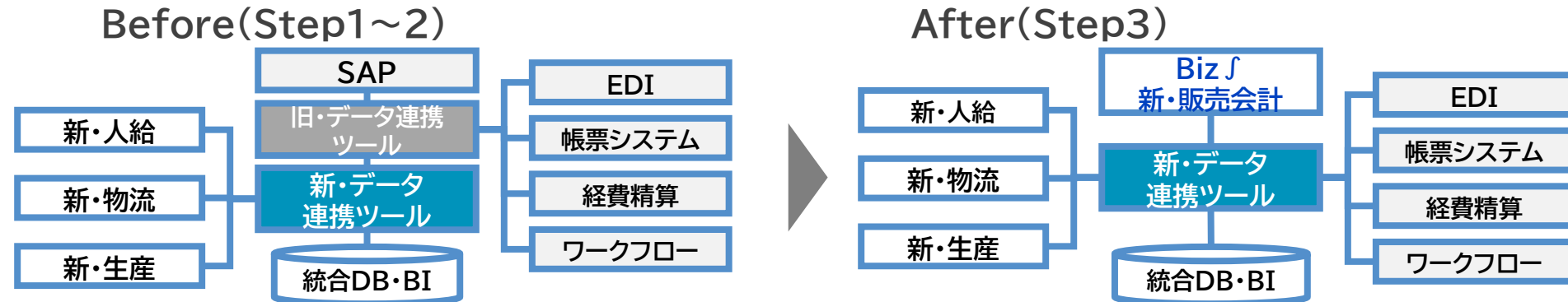
基幹システムの入替が目標。現行基盤を残しながら段階的に移行

課題

- ・ 連携フローがブラックボックス化
- ・ ツールの再利用ができない

対応概要

段階的な基幹システムの移行切替をデータ連携基盤の構築でスムーズに



効果

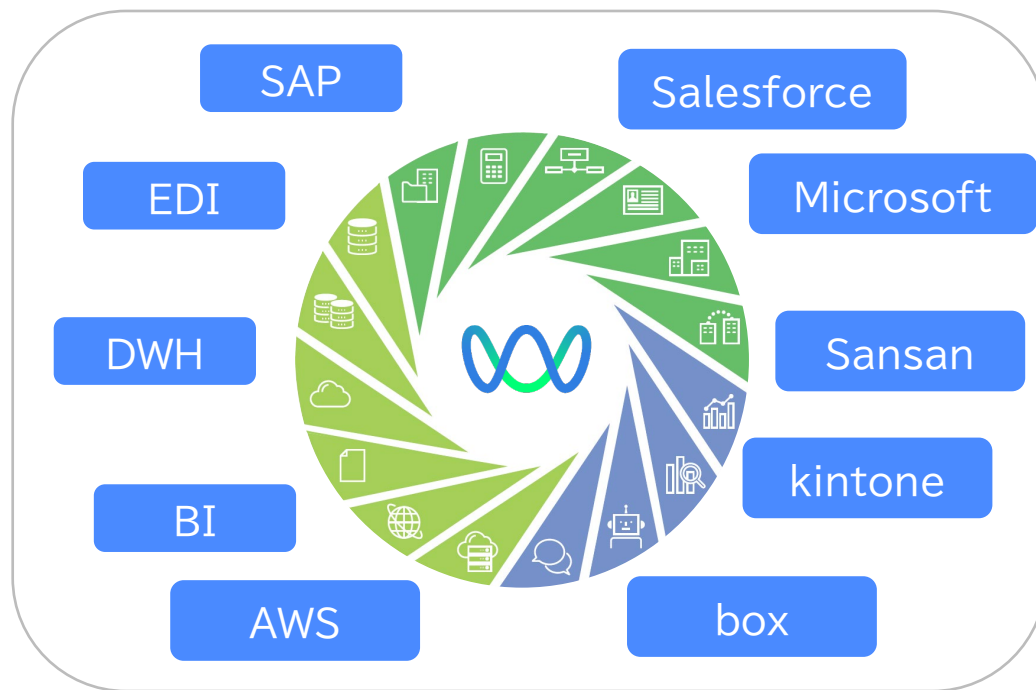
- ・ テンプレート活用により、連携処理の統一化しブラックボックス化をなくす
- ・ 開発者による開発や実装の癖やぶれをなくすことで、生産性・保守性の向上
- ・ スケジュール通りに、また段階的に実装していくことで安全に稼働

5. ASTERIA Warpと パナソニック デジタルの取組みのご紹介

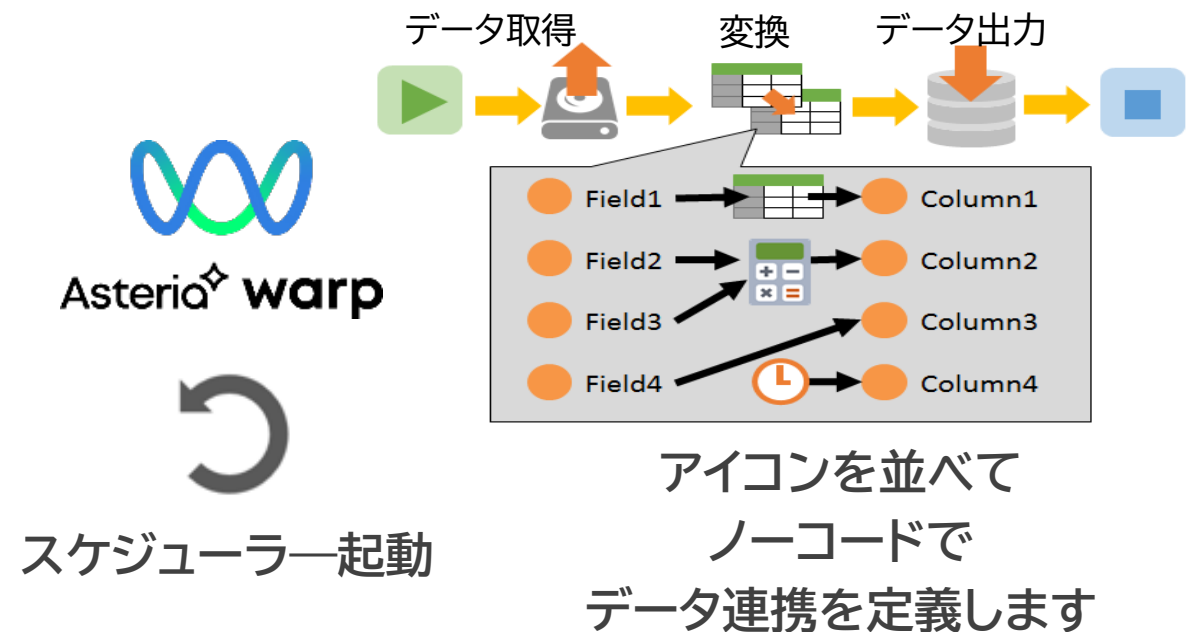
ASTERIA Warp とは

ノーコードで設計開発を行うことで、様々なシステムやサービスと連携し、業務の効率化やデータの活用を実現するデータ連携ツール

100以上のサービスやシステムと迅速に連携



シンプルな操作で超高速開発

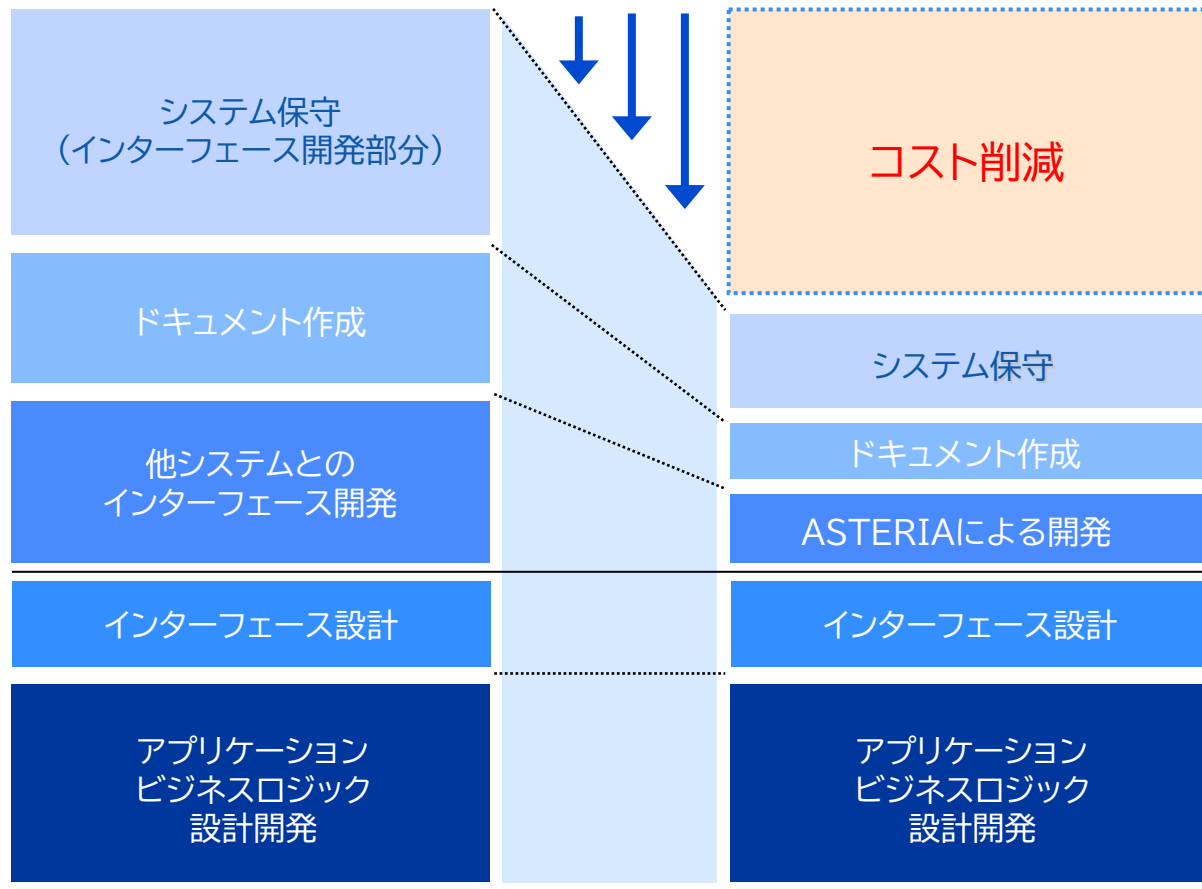


ノーコード開発による導入のメリット

「工数の大幅削減」、「属人化の防止」

【従来の開発フェーズ】

【ASTERIA Warp導入後の構築コスト】



	システム開発時	システム運用時
品質	属人化を防ぎ、可視化されたシステム 高品質、開発言語の標準化	データ仕様変更や追加開発にも柔軟に対応
コスト	手組と比較し約50% 工数コスト削減、高い生産性を実現 (当社事例より)	追加工数を割く事なく追加開発が可能 またエンドユーザによるメンテナンスも可能
納期	手組と比較し、 短期間で納品可能	運用管理性の向上により保守体制の変更にも容易に対応可能

サービスをつなぐASTERIA Warp+パナソニック デジタル
の独自のEAIサービスによりお客様のデータ連携を支援しております

パナソニック デジタル



- ① **独自テンプレート/標準ドキュメント**
により開発期間の短縮
- ② 豊富な支援メニューにより
お客様の内製化も合わせて支援
- ③ **実績・ノウハウがあるSE**にて
導入・開発・運用各フェーズでアドバイス

専任SEによる弊社支援

弊社ASTERIA Warpの**専任のSE部隊**により、
上流～導入～運用・保守、内製化の支援までを実施



キャンペーンのご案内①（ASTERIA Warp乗換）



Asteria[◇] warp

他社EAI/ETL製品をご利用のお客様限定 長期検証＋検証をご支援する弊社メニューをご提供

他社EAI/ETL製品 ※1をご利用中のお客様でご申請を頂いた方に限り、特典その1に加えて、選べる特典1つを選択頂くことが可能です。検証ライセンス・支援を合わせた費用として**100万円程度**が無償で利用可能。

期間限定
27年3月末
お申込みまで

特典 その1

評価版の利用期間 通常1ヶ月→3ヶ月

アステリア社製アダプターの全てと当社
アダプターを3ヶ月間無償で利用可能

※2



アステリア社製
Excelアダプターな
ど



Salesforce
アダプター

選べる特典 その1

初期インストール ・立ち上げ支援

- ・利用形態の簡易確認
- ・ASTERIA Warp試用環境のインストール作業支援
- ・初期設定（ユーザ作成、基本パラメータ設定）
- ・Designer接続確認
- ・環境構築時の留意事項

選べる特典 その2

フロー作成・ 開発スタート支援

- ・想定ユースケースのヒアリング
- ・フロー設計の基本的な考え方の説明
- ・簡易サンプルフロー作成
- ・データ連携・マッピングの基本説明
- ・Designer操作の質疑応答

選べる特典 その3

試用期間中の 定例ディスカッション

- ・ASTERIA Warp適用に関する業務領域
- ・他ツールとの棲み分け
- ・本番導入時の構成/運用イメージ
- ・内製/外注の考え方整理

一つを選択

※1 ACMS Apex / Alteryx / Anyflow / AWS Glue / Boomi / DataSpider Serviceta / DataSpider Cloud / Fivetran / HULFT Square / IBM InfoSphere DataStage / Informatica PowerCenter / krewData / Magic xpi integration Platform / Microsoft Power Automate / mitoco X / MuleSoft / Qanat / RACCOON / Reckoner / Talend / TROCCO / Waha! Transformer / Workato / Zapier etc.

※2 下記メーカーサイトに「提供:アステリア株式会社」または「提供:パナソニック デジタル株式会社」と記載のあるアダプターのみ対象となります。

<https://www.asteria.com/jp/warp/feature/option/>

パナソニック デジタル株式会社

キャンペーンのご案内②（無料診断キャンペーン）

連携基盤の継続利用・入替・共存判断に迷うお客様へ

本セミナー
参加者限定
限定3社
まで

連携基盤 健康診断

「何を残し、何を変えるべきか」 **無料で診断** します

こんなお客様におすすめ

- ✓ 評価版ライセンスや支援範囲に迷っている
- ✓ 連携本数・運用体制・課題を棚卸したい
- ✓ 属人化やブラックボックス化のリスクを把握したい

診断の進め方

STEP1: 現状ヒアリング

- ・ 利用中ツール
- ・ 連携本数
- ・ 運用体制
- ・ 課題整理
etc.

STEP2: リスク評価

- ・ 属人化
- ・ ブラックボックス化
- ・ EOL/EOS
- ・ コスト
etc.

STEP3: 診断結果報告

- ・ 継続利用
- ・ 共存
- ・ 部分移行
- ・ 全面刷新
etc.

キャンペーンのご案内②（無料診断キャンペーン）

本セミナー
参加者限定
限定3社
まで

データ連携基盤 アセスメントレポート（サンプル）

機密情報 | サンプル

パナソニック デジタル株式会社

1. エグゼクティブサマリー

現行のデータ連携基盤は、属人化・可視化不足によるリスクが高い状態です。
中長期的な拡張性・コストの観点から、段階的な見直しを推奨します。

総合評価

C

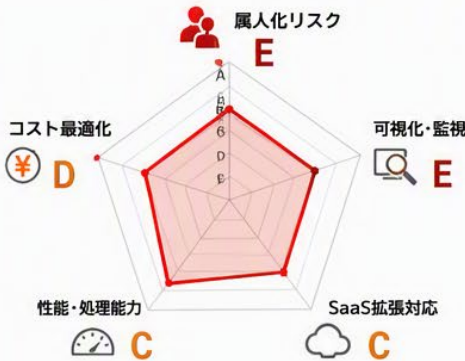
要改善
(リスク高)

推奨方針

共存（段階移行）

安定領域は現行基盤を継続し、
SaaS・API連携や改修頻度の高い領域から
新基盤へ段階的に移行することを推奨します。

2. 評価サマリー（5つの観点）



3. 基本情報（ヒアリング概要）

業種	製造業
従業員規模	1,000～3,000名
利用中の連携基盤	A社 EAIツール（オンプレミス）
連携本数（概算）	約85本
接続先システム	ERP、販売管理、会計、人事、 生産管理、WMS 他
クラウドサービス	Salesforce、kintone、 Microsoft 365、他
運用担当者	2名（兼務あり）
主な課題	属人化、障害対応の遅れ、 新規連携の追加工数、コスト増

4. リスク分析（優先度順）

リスク項目	リスク内容	影響度	緊急度	優先度
属人化	設計書が未整備の連携が多く、 特定担当者への依存が高い	高	高	★★★★★
可視化・監視	障害時の原因調査に時間がかかり、 影響範囲特定が困難	高	高	★★★★☆
コスト増加	ライセンス・保守費用が増加傾向にあり、 費用対効果が不透明	中	高	★★★★☆
SaaS拡張対応	新規SaaS連携のたびに個別開発が発生し、 開発効率が低下	中	中	★★★★☆
性能・処理能力	夜間バッチの長時間化、 大量データ処理時の遅延リスク	中	中	★★★★☆

【優先度の見方】★★★★★：早急に対応が必要 ★★★★★☆：計画的に対応が必要 ★★★★★☆：状況を見ながら対応

5. 推奨対応と期待効果

	期待効果
短期 (～3か月)	・連携一覧の棚卸し・可視化 ・運用フロー・依存関係の整理 ・監視・アラートの見直し 運用品質の向上 障害対応時間の短縮
中期 (3～12か月)	・改修頻度の高い連携の見直し ・SaaS・API連携領域を 新基盤（ASTERIA Warp）へ移行 開発効率の向上 追加開発コストの削減
長期 (1年以上)	・基盤の段階的な刷新 ・共通部品化・標準化の推進 ・内製化・運用自動化の実現 運用コストの最適化 拡張性・柔軟性の向上

6. 移行ロードマップ（イメージ）



診断結果まとめ

- ✓ 現行基盤の継続利用は可能ですが、属人化・可視化リスクが高い状況です。
- ✓ SaaS・API連携領域から段階的に新基盤へ移行することで、リスクを抑えつつ効果を早期に創出できます。
- ✓ 本レポートをもとに、詳細検討（要件定義・PoC・移行計画）をご支援いたします。

【次のステップ】

- ・ご質問・ご不明点のご確認
- ・PoCのご提案
- ・詳細移行計画の策定

※本レポートはサンプルです。実際の診断結果は各社の状況により異なります。

© Panasonic Digital Co., Ltd.

アンケートにご回答いただいた方へ、 本日の発表資料をお送りします

アンケート

各設問に回答後、画面下の「回答」をクリックしてください。

アンケートにご協力ください_デキる管理者はOSとアプリを分ける！？～「苦労あるある」から考える、VDIの最適解～

必須 1.会社名

必須 2.お名前

必須 3.セミナー資料を希望されますか

☐ 希望する

☐ 希望しない



データ連携基盤、比較せずに使い続けていませんか？

**EAI/ETL 導入企業が
陥りやすい連携課題
セルフチェックセミナー**

8/20(木) 15:00 - 15:30

Panasonic 主催：パナソニック デジタル株式会社
協力：アステリア株式会社

樽谷 厚史
代表取締役
パナソニック デジタル

セミナー終了後、本日のセミナーの「アンケート」が表示されます。
ご回答いただいた方へ、本日の発表資料をお送りします。

Panasonic